

令和8年度 第1回 四国地方整備局
コンプライアンス・アドバイザー委員会の議事要旨について

アドバイザー委員会事務局

1. 開催日時 令和8年6月23日（火） 14時30分～16時00分
2. 開催場所 高松サポート合同庁舎 13階 1306・1307会議室
3. 出席委員 委員長 三野 靖 香川大学名誉教授
委員長代理 藤本 智子 弁護士
委 員 岡本 幸江 NHK高松放送局長
〃 穴戸 栄徳 香川大学名誉教授
〃 古川 慎一郎 弁護士

（委員は五十音順）

4. 議事

- （1）委員長の選任
- （2）委員長代理の指名
- （3）令和7年度四国地方整備局コンプライアンス推進計画の取組状況報告

5. 審議内容 委員長とりまとめ

1点目はリスク管理についてです。個別の業務とか、個別の分野ごとでは、それぞれリスク管理というものは当然なされていると思うが、これをもう少し大括りにして、国土交通省ですから、工事施工上のリスク管理、現場でのリスク管理とか、財務会計上のリスク管理、職員の勤務上のリスク管理など、大括りをしたもので、どういう項目があるかということを試行的に洗い出し、検討してみてはどうか。2点目は、AIについてです。すでにデジタル庁や省庁別にルールがあるということだが、業務上、実態上どういう形でAIというのが使われているのか。どの程度、実際にそれが業務に反映されているのかということについて、実態調査・利用調査を検討してはどうか。

6. 主なやりとり

議事（1）

委員の互選により三野委員を委員長として選任。

議事（2）

三野委員長により藤本委員を委員長代理として指名。

議事（3）

委 員：企業においては、リスクベースでコンプライアンスの管理を行っており、オペレーションリスクとか信用リスクとかガバナンスリスクなど色々と設定してリスク管理が見える化し一覧表にしたりしている。整備局において、どういうリスクを重要視、優先順位を付けて、どういうリスク管理を考えていくのか。そもそも論として、そのあたりを教えていただきたい。

整備局：整備局としては、発注者綱紀保持を中心に、情報漏洩や官製談合等を起こさないところを基本に行っている。また、公務員の行動についても、国家公務員倫理規程を中心に取組を行っている。ご提案のリスク管理の見える化等については、今後、検討させていただきたい。

委 員：AIの利用については、より詳しく多くの回答が得られるので、個人的・私的に使用することがあると思うが、必ずしも正しい答えを教えてもらえるとは限らず、また、こちらから与えた情報を蓄積するので、情報漏洩の可能性が非常に懸念されるところ。ガイドラインに沿って使用していると思う

が、職務上で使用するとき、個人的に使用するとき、それぞれどういう問題があって、どう対応されているのか、今後どうされるのかをお聞きしたい。

整備局：国土交通省としては、生成ＡＩシステムの利活用ルールが作成されている。その中で留意事項も記載されており、安全性、公平性、客観性、中立性に問題がないことを確認した上で利用を行うことになっている。

情報漏洩に関しては、行政用パソコンで使用する際、検索結果等を学習しないというような措置が取られている。また、セキュリティポリシー上、私用の端末等を使用して業務を行うことは、基本的に禁止されている。なお、現在行政ＡＩとして、源内というＡＩが試行的に実施をされており、法令の検索や、国会議員答弁の要約版を作成する際に利用できるなど、行政に特化した生成ＡＩとなっている。

委員：今年４月には、銀行の新入社員が１日に１回、画像をアップするアプリを使用し、情報が漏れたというような報道もあった。SNSやAIの利用など、技術の進化、使われ方の変化とともに、今までになかったリスクが増えてきていると思う。発生してから対応されることももちろん大事だが、今後見込まれるというようなものも含め、一度リスクの洗い出しをしてはどうか。

委員：我々が想定しているリスク管理と皆さんが考えて行っているリスク管理は若干違うのかもしれないが、共通ベースでのリスク管理は、すでに省庁的にやっていることがあるような気がしているがどうか。

整備局：個別ごとにはあると思う。情報管理の徹底では、入札関係の情報漏洩を防ぐために、担当者を決めて、情報管理を行っている。実施している業務の一つ一つに関して遵守すべき事項がある。

委員：それを横断して、共通項で何か設定しているものはないか。

整備局：特に入札に関しては、積算する部署、それを受けて入札手続きを行う経理契約の担当者が、契約手続きの流れに則って、部署を横断して情報管理などを行い、情報漏洩の防止等の取り組みを行っている。一つの部署ということではなく、その業務に関連する部署については、同じ流れで取り組んでいる。

委員：縦串になっているものを横串で刺してみても、こういう共通項目があったというような洗い出しもできる。要は、リスクはどこの部署にも、大きいことから小さいことまである。それを洗い出しましょうということで、決裁の仕方などを含め、共通リスクがあるのではないかと思いますので、一度検討してみてもどうか。

委員：昨年も若手職員と幹部職員・管理職員とのコミュニケーションをどう図るかというような話が出ましたが、これからますますそのような部分が、ある意味リスク管理になってくると思う。若手職員との意識の差、我々が普通と思っていることが、若手職員にとっては普通ではなく、その逆もある。そのような職員間に関するリスク管理ということも考えてみてはどうか。

整備局：本日いただいたご指摘、ご意見をしっかり受け止めて対応することで、より一層コンプライアンスの推進の取り組みを進めてまいりたい。

以 上